



# 「はなのわペアレント・トレーニング」参加者募集

子どもの行動に「困ったな…」「どうすればいいのだろう…」など、悩みを抱えていませんか。ペアレント・トレーニングとは、お子さんのさまざまな行動に対してどのような対応が効果的なのか、“子どもとの関わり方のコツ”を学ぶプログラムです。親と子がより良い関わり方で家庭生活が送れるよう、同じ悩みを持つ保護者の皆さんと一緒に学んでみませんか。

**日時**▼6月10日、7月8日、9月9日(全て水曜日、全3回) 午前9時30分～11時

**場所**▼なごみ・総合支援センター

**対象等**▼村内在住で、おおむね3歳～小学3年生の子を持つ保護者(先着20人)

**内容**▼▽第1回…オリエンテーション、子どもの行動を3種類に整理しよう、好ましい行動を増やすには▽第2回…好ましくない行動を減らす

には▽第3回…子どもの協力を増やす方法  
**講師**▼根本仁子さん(ペアレント・トレーニングリーダー)

**申し込み・問い合わせ**▼5月13日(水)までに、電話で、子ども発達支援センター(なごみ・総合支援センター内 ☎282-3443)へ申し込みください。

参加費は  
無料だよ!



※掲載している情報は3月16日時点のものです。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・延期などを行う場合があります。

## 村松山と星宮(ほしのみや)

ふるさと歴訪  
〜歴史を再発見〜

1868(慶応4・明治元年)、維新政府が神仏分離を布告すると、神道優位の雰囲気が高まり、仏教的な要素を一掃しようとする廃仏運動へと発展しました。1869(明治2)年5月、水戸藩庁は村松山虚空蔵堂に対し、本尊(虚空蔵菩薩)を取り払い、「星宮」と称する神社にするよう命じます。これを受け、本堂は「神殿」、仁王門は「随神門」と改称され、本尊に代わって金幣が置かれました。これまで虚空蔵堂の正別当として管理にあたり、龍蔵院の野上大内蔵(義守)は、修験から神職への転向を命じられました。

明治初期、廃仏の嵐が吹き荒れる中、虚空蔵菩薩を本尊とする各地の寺院が星宮へと改称されました。これは、虚空蔵菩薩が明星天子とも呼ばれることから、星と結びつける信仰が存在したためと考えられます。

村松山では、やむを得ず本尊を龍光院(虚空蔵堂の脇別当)に移しましたが、御前仏は本堂に残します。ところが「神仏改め」に訪れた「役人神職等」は、村松山に対して、速やかに御前仏も撤去するこ



【大曾の“国造さん”が納められている厨子】

とを求めました。「御前仏は、水戸家御先代の義公(光圀)の御修復あらせられたる仏像である」。光圀も引き合いに出し抵抗する村松山の背後には、虚空蔵菩薩に信仰を寄せる村人たちの支持がありました。1871(明治4)年2月、水戸藩庁は「村松山の星宮を従前のとおり虚空蔵に戻す」との決定を下します。仏教を無視して神道を特別に扱おうとする政策の行き詰まりは明らかでした。

2011(平成23)年11月、私は栃木県宇都宮市大曾の星宮神社を訪ね、氏子さんのご配慮で社殿に入りました。ご神体は、近世に村松山より拝領したと伝えられる虚空蔵菩薩(一般非公開)です。残念ながら両手や宝冠は失われていますが、親しみを込めて「国造さん」と呼ばれ、入母屋の厨子(写真)に大切に納められています。「国造り」開拓の神」と解釈され、虚空蔵菩薩との関係を知る人は減っているそうです。しかし、大曾地区には「ウナギは虚空蔵菩薩の使いなので、食べてはいけない」という伝承も残っており、人々は十三詣など折に触れ村松の「虚空蔵さん」を訪れています。廃仏の嵐を乗り越え信仰を守り続けてきた大曾と村松。虚空蔵菩薩が結ぶ縁が、時を超えて今も両者をつないでいます。

「(仮称)歴史と未来の交流館」展示監修委員  
宮内 教男